

刊夕 日十月一



定価 一月五拾圓 郵費別  
廣告料 五拾圓 印刷費 五拾圓  
日曜祭日の翌日休刊  
發行所 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日新聞印刷局

### 臺灣紀行

伊東 一

十二月五日午前九時高雄發屏東に向ふ屏東は高雄の東十里計り臺灣に於ける最南端の市にて淡水溪平原に陸軍飛行場がある。街は廣く人口は四萬位もあらん、内地人は六七千人附近山中十里計り離れたる處には生蕃人住み市に蕃人の毎日山中より來るを見る。此附近芭蕉畑ありバナナップの畑、砂糖畑等其他熱地特有の果實や植樹殊に目に付き數丈のネムリ樹椰子臺灣松の街路樹ビロー樹を見る時は南洋に來たる感あり屏東の公園は市中平地に位置し熱地植物と芝草を配したる涼しげな處だ。其後方に數軒の蕃屋あり屋根の棟低く八九尺もあるかヒサシの高さ四尺位、入口は僅か身の出入に足る丈の處一方口あり、奥三間半間口四間位周圍はスレートの平たき玉石如きものを積みかさね、若しくは土を以てて壁として居る處もあり、屋根はスレート石を以て葺き家の中はスレート石の大きなもの平に敷き中に立派なる中に煮炊する爐や便所等あり、死人あれば皆其家中に死體を埋め女は石の床

の下男は床なき石畳の下に埋め置くと家の中の太柱鴨居等に蕃人式の古風な蛇やから人首等のグロテスクの彫刻あり鴨居の彫刻に依り蕃族の種族が違ふと家の外に床高くした、一間四方位の藁葺家の如きものあるが是は蕃人の倉庫なりと、蕃人の町に物品交換に來る時の宿舎に土地の者の應援を得てこゝに蕃社より多數の蕃人來つて造つたものであると毎日數名の蕃人行來して居る。余等と話せる蕃人はパイワン族でチムルサイと云ふ年十八才小學校四年を出て内地語に委しいので便利だつた。先に先祖から傳はる寶物だとして石や貝やら美景色とりあるものを連ねたるものを飾り居り、スカート如きものを腰につけ蕃人式の衣を着し居た。彼等は何時も裸足で山

### ノート

紋は羽織の肩山にビンと折目は付けぬもの火熨斗で落してから着る足袋を真先に穿け、着服の手順がよい野をかけ農を営み獵を業とすと毒蛇の如き居ないかと言へば山に居るも注意して歩み、見付ければ蕃刀を以て切るとか、猪鹿熊虎等を獲ると蕃人が熊虎と云つ

た處で臺灣のはマミヤ山猫位のものだらう。米も粟も作る品物を賣りに來ると云つても蕃女の織物位のもので蕃女は結婚すれば手首に入墨をし、男は入墨がない且し人首でも取つて偉くないれば胸に入墨をすると云つて居る、それは台灣全部の蕃人でなくこの地方の蕃人の習慣で他蕃社では末だ顔に妻い入墨をして居る處もあると、彼の父の時代には相當首取りの時代もあり滿洲の馬賊の如く他の蕃社と

- 【朝】 味噌汁——みつ葉 小付——らつきよう
  - 【晝】 スチユウ——人蔘 馬鈴薯 玉葱 ベーコン
  - 【晚】 焼き物——鰯
- 攻め合い敗れば逃げ退き他の地方へと移住し勝てば軒にあるビロー樹を切つて蕃屋に火を付け多數の分捕子をもつて引上ぐるさうだ、勿論此時首も取るさうだが勝つて一族首長の家に引上げ庭前にある首長の座へ首を置き首祭りをするさうである。チムル少年にお前は首を取つた事があるかと言へば今は首を取らないと云つて居る。五六年前總

督府の役人と巡查が駐在所を建てる時蕃人が反對したのも聞かずに建てたので役人と巡查の首を取つて首祭りした時戦をしたと云つて居る。今では如何なる山奥の蕃社にも駐在所があつて蕃社と蕃社の争を止めさせて居るとか、今より三百年も昔台中方面の蕃社に吳鳳と云ふ神様の様に尊われた首長が蕃人の首取りを堅く慎めてた處惡病流行したのでこれは首取りをせぬからだと云つて聞かぬので、それは明朝赤い頭布に衣を着た人が通るからその人の首を取れ、それを取つたら後は一切首を取るなと云つて蕃人一同を歸し翌朝自分が赤の頭布を着て首を取らした。それから蕃人は驚き悲んで其後は首を取らぬ様になつたと云つて台灣の支那人の祭には今でも吳鳳祭と云つて軒に吳鳳を書いた提灯を垂つて祭をして居ると蕃屋では勿論電氣がない今でもカンテラを垂して居るさうだ。

### 看護婦急派の求めに應じます

平町南町 看護婦急派の求めに應じます 平看護婦會 電話三〇七番

美味で！ 評判の……

イワキ サロン

美味！ 芳醇！

電 352

宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

長唄 花柳流 舞踊

御稽古は 致します

平町南町 花柳舞踊流 研究會 花柳徳三郎 杵屋十茂代

旭硝子株式會社製品 板ガラス

赤菱印 菓子 壘 硝子 食器 其他 各種

松崎硝子製作所 平町新川町(電話一四二番) 支工場 仙臺市榮町(電話五九七番)

旭硝子株式會社製品 赤菱印 板ガラス

無酸不硫凍 泡沫強力

特許貳億萬圓消火器 福島縣一手特約店

專賣特許 實用新案 大嶺商店 假事務所 平鍛治町二九 電話五〇三番

専門 内科一般

宅診 内科は何でも診療致します 往診 呼吸器病ばかりではあまりせん 平町南町六五

川井内科診療所 電話一八一番 醫學士 川井重之 女醫 川井安子

市原醫院 平町田町(電話二一四番)

内科 小兒科 市原卯太郎 外科一般、婦人科 市原陸郎 外科梅毒、淋病 市原三三男 入院隨時

# 職員慰勞金を

## 全部村へ寄附

### 田人小學校の教員達が 疲弊の實狀に同情して

## オルガンで御禮

田人小學校の職員一同は年  
末慰勞金として總額五十圓  
を支給されたが深刻な農村  
の不況時に際し年末賞與金  
を受けるのは心苦しいから  
と職員一同協議の結果全額  
の寄附を村に申出たので村  
當局では御禮として學校に  
オルガンを備付ける事にな  
つた

## 梨の選定

### 内郷で講習

内郷果樹組合では明十一日  
午前十時より組合事務所  
齊藤神谷農事試験分場長を  
招き梨の選定方法及び施肥の  
方法等に就いて講習を受け  
ると

## 地主連が

### 不服で買収困難

#### 第三小學校の運動場敷地

平町では第三小學校の増築  
に伴ひ運動場擴張の必要上  
増築委員が關係地主六名と  
附近水田買収に就いて種々  
交渉中であるが坪三圓と云  
ふ當局の買収價格に對し地  
主連は諸橋氏一人が承諾し  
たのみで他は何れも應ぜず  
新學期も切迫するので明十  
至難の状態にあるので明十  
一日午前十時より役場會議  
室に委員會を開き善後策に  
就いて協議すると

## 平町教育

### 役員會協議

平町教育會は本日午前十時  
より町役場會議室に於て役  
員會を開き八年度決算並に  
九年度の豫算編成に就いて  
協議した

## 平第二校

### 正副級長

平第二  
小學校  
では本日各學年に於ける今  
學期間の正副級長を左の如  
く決定

## 醫者無し村に

### 診療班の訪れ

平署駐在の巡迴診療班では  
本年最初の初診療を左記日  
割で巡廻すると  
十五日鹿島 十六日箕輪  
十七日永戸 十八、十九  
日 川前廿一日 貝泊廿  
二日 荷路夫廿三日 石  
住

## 鰯カス

### 四倉で入札

四倉信用購買組合では去る  
七日組合事務所にて同  
町特産鰯カス千二百俵を入  
札に附した結果一俵三圓五  
十錢で同町の鈴木治作氏に  
落札したと

## 校長會議出頭

校長正木貞一郎氏は昨報の  
落札したと

## 常設館たより

平 館 日活現代劇市川

キヨ(四ノ二)三浦榮子  
菅本幹子(四ノ三)坂本勝  
子 椎名時子(四ノ四)田  
代喜美 鯨岡久(五ノ一)  
石川清子 大木アサ(五  
ノ二)長瀬喜美 齋藤光  
子(五ノ三)佐藤久子 小  
川フミ子(六ノ一)鍋島ハ  
ツノ 小宅ヒナ(六ノ二)  
橋谷田壽子 大和田智恵  
子(六ノ三)小野浅子 高  
階翠(高ノ一)鈴木いて  
長谷川文子(同二)小野文  
子 永山ミヨ子(同三)格  
和京子 齊藤登美子(高  
二ノ一)浅倉歌子 酒井  
キク(同二)梅山千代子  
丹野芳子(同三)佐藤光子  
小川キキ

春代、山本嘉一主演『輝  
く門出』日活現代劇山路  
文子、高津愛子主演『女  
性陣』日活現代劇大河内  
傳次郎、高津愛子主演『鼠  
小僧次郎吉』  
世界館 新興時代劇小金  
井勝、歌川八重子主演『さ  
けぶ雷鳥』市川プロ作品  
市川右太衛門、大江美智  
子主演『變愛やくざ』松  
竹現代劇全發聲川崎弘子  
岡譲二、澤蘭子主演『歡  
喜の一夜』

## 平町人事

回出生  
△胡摩澤一〇〇 蛭田清氏  
長男清三  
回婚姻  
△小名濱町字古港八七 小  
野清氏(二五)久保町二六  
鈴木キヨ子(二三)  
回死亡  
△新川町二二 井上キサ  
(二六)

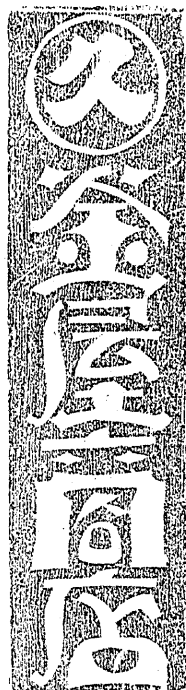
## 市原醫院

平町 田町  
電話一四四番

## 井坂醫院

平町 田町  
電話五五九番

御融通には！  
是非御利用を……。  
萬事便利な御相談に應じます。  
三井質店  
平四・電六〇六番  
磐城セメント會社特約店



磐城平町五丁目 電話九番九九番  
□良品廉賣に勝る商略なし  
□確實敏捷はの生命なり

体温計の検査日です  
10日  
検査新  
機設  
お宅の体温計は？  
◎正確な体温計を御使用下さい  
◎毎月十日の検査日御利用下さい  
度量衡指定販賣人 西村屋藥局  
計量器 電話三番

産科 院長 木村寅次郎  
婦人科 醫學博士 内木宗八  
外科 藥劑師 立番彌一  
藥局  
平町新川町十九  
入院隨意 木村病院  
病室完備 電話一六四番

# 平町の土地

## 明渡し請求訴訟

### 口頭辯論開かる

#### 青訓査閲

廿四五兩日

現在マーケットの在る田町の町有地を借り受けた盛地代も支拂はねば明け渡しもしないといふので業を煮して平町から平陽裁縫女學校長酒井ミヨ氏を相手取り土地明渡しの請求訴訟を提起する事となつた事件は既記の如く平町側の代理者千葉辯護士の手によりて舊臘廿七日平區裁判所に訴状を提出したが来る廿九日第一回の口頭辯論が開かれる由

## 優良店舗と徒弟

### けふ理髮組合が表彰

既報平署管内理髮業組合では本十日午前九時より平署會議室に於いて總會を開き左記優良店舗廿軒及び徒弟三十名を表彰した

- ▲店舗(湯本)岩崎信一 大井川ウメ(赤井)關谷甚歳(小川)會川國一(好間)今野秀吉 草野留治 齊藤兵三郎 高橋アキ(小名濱)菜花清 仲田ハナ ▲徒弟(好間)樂茂(赤井)松島賢(平)吉田源造 佐藤富男 野崎秋光 北崎トヲヨ 佐藤長吉(根本)榮次郎 加賀美三郎 佐藤末吉 東城ヨネ(内郷)

## 請負業が

### けふ總會

濱三郡土木建築請負業組合では本十日午前十時より平町の組合事務所で總會を開き本年度豫算並に十九日福

島市に開かれる縣下大會への提出事項に就て協議した

## 揃ひのハツピで

### 少年消防出初式

錦村少年消防隊は昭和五年縣下最初の少年消防隊として組織され其後模範的な發達を遂げたが今回村民有志の寄附で揃ひの法被を新調したので是れが披露を兼ねた出初式を去る七日午前十時より校庭に於いて行ひ規律訓練後平消防組頭井上茂作氏の消防講話があつたと

## 千三百羽の

### 鶏が丸焼け

#### 今曉月見町の火事

平町月見町二七精米業高橋傳重の經營する鶏舎より今曉午前一時半頃發火したのて平消防組員が出動して消火に盡力したが鶏舎は千三百餘羽の鶏ぐるみ全焼して同二時頃鎮火した原因は鶏の温熱器から發火したもので損害約千圓であると尙附近には片倉製糸工場がある事

## 夜間教練

### 出席率良好

平青年訓練所では過般來各商店の店員及び徒弟の爲め夜間部を設け毎週火、木の二回宛町役場講堂に於て藤田中尉始め中野伍長鈴木



今晚は北西の風曇 氣味明日は北西の 風天氣良くなる

## 今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間 お話 福澤諭吉先生經濟學博士 太田正孝
- 後六、三〇 二元放送東西對局將棋大手合(第九日)

- 後七、三〇 講演 後八、〇〇 ラヂオドラマ 「日本の夜明」友田恭助其他
- 後八、四〇 新講談「福澤諭吉と其門人」伊藤痴遊

## 明日の部

- 後九、三〇 時報 ニュース氣象通報 番組豫
- 前七、〇〇 基礎獨語講座 (二)橋本忠夫
- 前九、一〇 料理献立
- 前九、三〇 家庭講座 「十二月月茶の湯」一月茶の湯懷石料理法(終)栗山善四郎
- 後〇、〇五 映畫物語
- 後二、〇〇 家庭講座 吉

## 溜池設置

### 圓滿に解決

鹿島村では昨年中工費千三百圓を以つて矢田地内に灌漑用溜池を設置すべく計畫し土地の買収を開始した處値段の相違から紛糾中村長及び區長の調停に依り今回圓滿に解決去る七日より着工した

## 汽車賃迄借りて

### 無一文客高飛び

仙臺市清水小路三八自動車修繕業石郷滿之吉(三)は昨年十月廿日より廿五日迄平町田町旅館會津屋に投宿し宿料十圓六十三錢を請求されるると一先づ自宅へ歸り持参すると稱し仙臺迄の汽車賃二圓二十錢を旅館から借りて出發して音沙汰がないので訴へにより目下平署では詐欺犯として手配中である

## 平職業紹介所報告

- △出人を求めめる方
- △出前持 二十前後 尋卒
- △月四圓 外仕着
- △書生 十六才 高卒 月

- △小使 二十七才 尋卒
- △事務員 二十二才 中卒
- △店員 二十一才 中三修
- △小役員 十六才 高卒
- △給料面談
- △土木技手 三十才 工業
- △土木科卒 給料面談

印刷御用命は總て 印刷日每警常 番〇三六話電

耳鼻咽喉科専門 大和田醫院 平町南町 電話一〇七

難波醫院 平町大町 電話五〇二

岡彌生 後五、三五 受驗講座 歴 史齊藤茂 後六、〇〇 子供の時間 吹奏樂 仙臺少年團健兒音樂隊 後六、三〇 二元放送 東西對局將棋大手合第十日 後七、三〇 舞臺劇 中座 村鷹治郎一座



【禁無斷轉載上演映畫】

寶馬 琴演  
山本 英春 畫

第二百二十八回 徳川家に崇る村正

踏み倒す道具屋

西念が盗み出した村正を  
持つて来たのは鳥越の古道  
具屋七兵衛の處へ毎日寺か  
ら種々物を盗み出しては  
七兵衛の家へ持つて行く、  
七兵衛も事情を知つてゐる  
から、二足三文に踏倒して  
買つては、巨利を占めてゐ  
る

西「七兵衛さん、今日持つ  
て来たのは一寸大物だ、其  
心算で價を能く買つてお呉  
れよ」

「何だい西念さん、大變に  
長い物ぢやアないか、ハ、  
ア佛畫だね、懸軸なんてえ  
物は出所が確でねえと買れ  
ねえものだから、餘り好い  
價で買ふ譯にやアいかねえ  
よ」

西「オイ、七兵衛さん、  
乃公が何時出所の確でない  
物を持つて来た、いつだつ  
て乃公の持つて来る物は出  
所が分つてゐるぢやアない  
か」

七「夫アマア満更分らねえ  
譯でもないがぢやア何かい  
之は西福寺の西念といふ者  
が持つて来た品ですと出處  
所をハッキリ買手に話して  
も宜いのかい」  
西「オットット、夫はいげ

ない、そんな事を云つちや  
アいけない」  
七「ソレ見ねえな、シテ見  
りやア出場所が分らねえの  
も同じ事ぢやアないか」  
西「アマ、宜しい、お前  
に掛つちやア叶はん、足許  
を見られてゐるんだから」



七「バ、馬鹿な事を云つち  
アいけない、正宗なんてえ  
物が滅多にあるものぢやア  
ねえ、本阿彌の著した名物  
帳とい物がある、夫れをい  
つだつかけお出入先のお旗  
本の處で拜見した事がある

加賀様その他大きな大名の  
お家にあるばかりで、幾ら  
松平西福寺でも、寺方なん  
ぞ正宗なんぞのありやう道  
理がない、私が知らねえと  
思つて馬鹿にしちやアいけ  
ねえ」  
西「流石は道具屋だけあつ  
て恐れ入つた、然し正宗だ  
つて生涯に十九刀や二十刀  
ばかり鍛つた譯ぢやアなか  
らう、戦場であつた刀もあ  
るにはあるだらうが、まだ  
大名でも旗本でもない  
處に、寶物として大切にさ  
れてゐる刀がない氣支ひは  
ない、能く昔から神社佛閣  
へは銘刀を奉納した物だか  
ら、社や寺を探ねたら幾ら  
も正宗が出て来るかも知れ  
ぬと私は思ふな」

七「イヤ、成程夫も理窟だ  
だが西念さん、今も云ふ通  
り、刀だつて書置だつて同  
じ事だ、確に之は寶物だ、  
以前はどういふ人が持つて  
ゐた、夫から誰の手へ渡つ  
てどうして斯うしてと詰り  
其りや品書の系圖だ、書付  
とか箱書とかいふ物がある  
なら相當の價値はあるがさ  
もなけりやア正宗にした處  
で、餘り價値はない」  
西「兎に角見て貰はうぢや  
アないか、品物を何とかけ  
ますのはお前の手なんだか  
ら」

七「だが西念さん、褒める  
客は買はないといふせ賤す  
のは買ふ氣があるからだよ  
ドレ見せて貰はう」  
と七兵衛鞘を拂つて見て  
ゐたが  
七「成程之ア切れさうだ刀

屋ぢやアねえから何處が宜  
いのか悪いのか、そんな事  
は分らねえが、見れば見る  
ほどゾツとするやうだ、確  
に之ア切れる」  
西「オイ、七兵衛さん、  
切れるん、つて、そんなに  
振廻しちやア危ない、一體  
幾らで買つて呉れる」  
七「サア、奮發して、五兩  
……」  
西「エ、ツ、五兩、只の五  
兩かい」  
七「さうだ」  
西「冗談云つちやアいけね  
え、正宗なら三百兩や五百  
兩するだらう」  
七「夫アマア確かな箱書で  
もありやア其位はするが、  
何にも書付がないから五兩  
だ」  
西「餘り違ひ過ぎるぢやア  
ないかどうだい、真中を取  
つて百五十兩位に買はない  
か」

七「さうだともどうせ正當  
の物ぢやアねえんだから、  
高え値にやア買へないよ、  
若しも夫で賣るのが嫌なら  
外の、道具屋へ持つて行き  
な」  
西「宜いよ、モウ分つた  
そこで今日持つて来た品と

が、上下二冊で立派な本だ  
その中に正宗が何刀吉光が  
何刀、郷の義弘が何刀、持  
主から刀の長さ、値段書ま  
でチャンとしてある、たし  
か正宗は十九刀か二十刀あ  
つたが、勿、くも將軍家  
を始め、尾張様、紀州様、

一冊の代金で  
御希望通りな  
五冊の雑誌が  
自由に讀める  
川崎 回文庫  
電六三〇番  
(申込次第規則書進呈)

木村 外科 醫院  
平町五丁目橋際  
電話九〇三番

藤沼 醫院  
内科、小兒科、花柳病科  
入院應需  
平町紺屋町  
電話五〇七番

毛糸が御安くなりました  
相かわらず御用命の程を  
並毛糸一オンス 十二錢五厘  
極太毛糸一オンス 十二錢五厘  
中細 極細 スキー印 ダイヤ印  
アトラス ビーハイブ ホワイトヒース  
田町 ハシモトヤ糸店  
電十四番

咽喉專門  
入院應需  
平町田町七〇番地  
山内醫院  
醫學士 山内亨吉  
電話六九一

日本に唯一つ  
魂の這入つた  
東京工場  
聯盟の自轉車  
指定販賣所 フタバ商會  
平新川町・橋際